

令和4年度 第3回 小金井市地域福祉推進委員会 会議録

日時：令和5年3月29日（水）

午前10時00分から午前11時30分まで

場所：市役所第二庁舎8階 801会議室

出席委員 11人

会 長	金子	和夫	委員		
副会長	石塚	勝敏	委員		
委 員	阿 萬	理 恵	委員	井出	悦弘 委員
	山本	俊 郎	委員	青松	佐 枝 委員
	秋山	理絵子	委員	小森	哲 夫 委員
	酒井	利 高	委員	畑	佐 枝子 委員
	穂坂	英 明	委員		

欠席委員 1人

中山 広美 委員

事 務 局	福祉保健部長	中谷	行 男
	地域福祉課長	根本	礼 太
	地域福祉係長	島田	泰 吉
	地域福祉係主任	玉井	奈保子
	株式会社名豊	小池	武 史

傍 聴 者 0人

提出資料 （資料1）小金井市地域福祉推進委員会委員名簿
（資料2）小金井市地域福祉推進委員会の運営等について（案）
（資料3）小金井市保健福祉総合計画策定概要
（資料4）小金井市保健福祉総合計画策定に関するアンケート調査報告書＜概要＞

1 開会

根本課長：皆さま、おはようございます。定刻までお時間がありますが、委員の方がお揃いですので、令和4年度第3回小金井市地域福祉推進委員会を開会いたします。
本日は、大変お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。私

は、地域福祉課長の根本と申します。よろしくお願いいたします。

(欠席者の報告と会議成立について報告)

(資料確認)

2 議事

(1) 委員の委嘱

根本課長：委員の委嘱についてですが、机上に委嘱状を置かせていただきましたので、ご確認ください。

(委員の任期について説明)

本日は、対面による初めての会議ですので、簡単に自己紹介をお願いいたします。

(阿萬委員、井出委員、山本委員、青松委員、秋山委員、石塚委員、小森委員、酒井委員、畑委員、穂坂委員、金子委員より自己紹介)

根本課長：ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

(事務局紹介 コンサルタント紹介)

(2) 会長及び副会長について

根本課長：(会長の選出方法について説明)

(会長は金子委員に決定)

金子会長：限られた期間の中で地域福祉計画を策定していかなければいけないということで、困難もあるかと思いますが、会議の進行や計画の策定にご協力をお願いいたします。

根本課長：以降の会議の進行は金子会長にお願いいたします。

金子会長：(副会長の選出方法について説明)

(副会長は石塚委員に決定)

石塚副会長：副会長として、会長不在の際には務めさせていただきます。本会議が重要な会議であることは認識していますので、皆さまと意見を交換していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 諮問について

金子会長：(3) 諮問について、事務局から説明を求めます。

根本課長：(市長に代わり諮問書を代読)

金子会長：ありがとうございました。確かに諮問を承りました。期日は令和6年2月ということですので、本委員会で意見をまとめていきたいと考えております。ご協力、よろしくお願いいたします。

(4) 会議の運営等について

金子会長：(4) 会議の運営等について、事務局より説明を求めます。

事務局：(資料2に沿って説明)

金子会長：事務局より、会議録の全文記録のご提案がありますが、ご異議ありますか。

一同；(異議なし)

金子会長：ありがとうございました。会議録は全文記録で進めます。

続いて、意見提案シートについて、事務局より説明を求めます。

事務局：(資料2-4に沿って説明)

金子会長：ありがとうございました。事務局の意向としては、意見提案シートを活用すること、また活用方法は記名を求めた上で正式資料として取り扱うということです。私としても意見提案シートは大変有効だと考えます。ご異議ありますか。

一同；(異議なし)

金子会長：ありがとうございました。

山本委員：質問です。私ども委員も帰宅後に意見を書き、提出できるということですか。

金子会長：はい。委員の方は他にも、直接事務局まで電話やメールをしていただければ受け付けます。

では、意見提案シートはこの形式で使用することにいたします。

次に進みます。

(5) 保健福祉総合計画について

金子会長：(5) 保健福祉総合計画について、事務局より説明を求めます。

事務局：(資料3に沿って説明)

金子会長：ありがとうございました。

先に進みます。

(6) アンケート調査実施状況について

金子会長：(6) アンケート調査実施状況について、事務局より説明を求めます。

事務局：(資料4に沿って説明)

金子会長：ありがとうございました。

ご意見、ご質問があればお願いいたします。

酒井委員：一般市民調査の回答率が36%、3人に1人の回答ということで、アンケート調査としては大変低い値です。サンプル数も市民の傾向をつかむには少ないと思います。督促等の取組は実施しましたか。

事務局：他の個別計画も含めると督促のような案内を出した調査もありますが、地域福祉計画に関する調査は督促等は実施しておりません。

酒井委員：では送付して回答を待つということですね。広報やホームページ等を活用して周知はしていませんか。

事務局：広報については、ホームページや市報、ツイッターを活用しております。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございませんか。

阿萬委員：今回はインターネットでも調査を実施したということですが、回収率の増加にはつながっていません。紙で回答していた人がインターネットに切り替えたということでしょうか。

事務局：回答率には変化がありませんでしたが、インターネットを活用することの目的としては、年齢層を広げるということで、若い方等、これまで回答していただけなかった方からのご意見をいただくことができました。インターネットによる回答も一定数ありましたので、効果はあったと考えておりますが、全体としては前回並みの回答率になったということで、市民の方の行政への期待や参加意欲等を今後、分析する必要を感じております。

金子会長：他にご意見等はございませんか。
先に進みます。

(7) アンケート調査結果概要について

金子会長：(7) アンケート調査結果概要について、事務局からご説明を求めます。

事務局：(資料4に沿って説明)

金子会長：ありがとうございました。
ご意見、ご質問があればお願いいたします。

井出委員：会長にお尋ねしたいのですが、大学で論文等をご指導されていると思いますが、統計学において、今回の調査の有効回答率36.2%は有効だとお考えですか。

金子会長：私は統計や社会調査等の専門家ではありませんが、東京都でヒアリング調査やアンケート調査を実施していた経験から申し上げます。今回の結果は十分意味があると思います。ただ、対象者によって回答率が著しく低い場合もあります。3万人を対象にした調査で回答率3%という調査もありました。そのような中で、階層別に細かくクロス集計等の分析を積み重ねてきました。この回答率は低いかもしれませんが、意味はあると判断します。

井出委員：どのような意味があるのか教えてくださいませんか。

金子会長：本来、調査結果はどこまで普遍化できるかどうかということが重要ですが、それがどのようなエビデンスに基づいて普遍化できるのかを明らかにすることも大切だと思います。少ない回答数であってもエビデンスになりえて、どこまで普遍化できるのかを考えると、さまざまな調査対象を階層別に分析する中で、他の要素も含めて検討することで、ある程度普遍化でき、意義をもつものになると思います。

井出委員：ありがとうございます。よくわかりました。

酒井委員：7ページの間15、16のひきこもり調査は非常に重要な調査だと思います。全国的にみても正確な統計はありませんが、一般的には、全国で60万人から70万人の方がひきこもりだと言われています。600人中で約21人ということで、出現率約3%という数値は、非常に高い数値だと思います。小金井市の人口から考えると、かなりの人数になりますが、これがどこまで統計的な実態を表しているのかという評価が必要だと思います。

次の設問で原因をお聞きしていますが、複数回答ではありますが、1の方がご病気や社会生活上の理由を挙げておられます。全体としては若い働き盛りの方が中心の回答だと思います。事務局ではどのような評価をされていますか。

金子会長：委員の方々は多方面で関わっておられると思いますが、お立場から感じるものがあればお願いいたします。

畑委員：私は障がいのことに関わっていますが、ある家にひきこもりの子どもがいるということを、地域の方はご存じないように思います。親御さんもその事態を隠したいとお考えです。何とかしたいと思われていますが、手立てがわからず、何もしないまま時間が過ぎている感じです。親御さんも高齢化していく中で、今後、どのように養っていくのかという不安もあるようですので、福祉につなぐことはできないかと思います。ただ、ご本人たちはつながる意欲をおもちではありません。自立支援協議会でも、ひきこもりは課題になっていますが、つながることの難しさは、他のご家庭にも共通することだと思います。

それが、このアンケート調査結果に、実態として表れているのか疑問に思います。割合としてはもっと多くいるような気がします。地域差もあると思います。私の地域は町内会が盛んではありませんので、近所のつながりが希薄です。引きこもりの方に対する支援のしかたについては、大きな課題だと思います。

金子会長：ありがとうございます。

他にご意見等はございませんか。

阿萬委員：このアンケート調査では、「ご家族でひきこもりの方はいますか」と聞いていますが、畑委員のご意見のとおりご家族はどうしても隠しがちだという実態もある中で、「ご近所等で気にかかる方はおられますか」というような聞き方のほうが、より実態が把握できるのではないかと思います。なぜ、このような聞き方になったのか経緯を教えてくださいませんか。

事務局：ひきこもりの方に関する設問で「ご家族でひきこもりの方はいますか」とお聞きしていた経緯ですが、ご家族が一番正確に実態を理解されているということで、同居しているかどうかには関わらずご家族にお尋ねしました。阿萬委員のご指摘のとおり、この聞き方で地域の実態が本当に把握できているのかと考えると難しかったかもしれません。今後も引きこもりの支援に関しては、実態把握と支援方法を模索する必要があると考えておりますので、「ご近所に気になる方がおられますか」という聞き方も検討したいと思います。

また、引きこもりの調査は、このアンケート調査以外にも、総合相談窓口への相談件数等、いろいろ角度から実施できると思いますので、ご意見を参考にさせていただき、今後、より正確な実態が把握できるように努めたいと考えております。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございませんか。

井出委員：自分の所属する町会をみると、「見えない方」が非常多いと感じます。可視化されていない現状があり、知っていても、守秘義務がフェンスになりアクションが起こせない場合や、ご本人がSOSを出さない場合もあります。ここに出ている数字は大変少ないと感じます。

金子会長：私どもも、当然、この数値よりも多いと想定しながら、いろいろな施策を展開していく必要があると思います。

専門家による実態調査等を実施すれば、正確な数値が得られるかもしれませんが、まずは、ある程度のところを抑えるという内容で、今回の地域福祉計画づくりに生かしていただきたいと思います。

石塚委員：私は福祉総合相談窓口の担当をしておりますが、日常的に引きこもりがちな方の支援に関わる中で、当事者の集まる場所やご家族の集まる場所をつくるということで、ひきこもりの方との接点が多いと思います。今回の調査結果に関しては、数字は数字として考えればよいと思います。調査の中では、アンケート調査結果と現場での感覚が真逆なこともあります。例えば障害の調査では、金銭管理の困りごとについて、現場では認知症や知的障がいの方に比べて精神障がいの方の多くが金銭管理に困っていますが、アンケート調査結果で出てくるのは認知症や知的障がいの方は金銭管理に困っているが精神障がいの方は困っていない、といった結果が出る場合があります。今後、計画を策定していく上で、数字は数字として受け止め、「数字ではこうだけれども、実態は異なっている」というような感覚も大切である

と思います。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございますか。

山本委員：私は福祉に携わっていますが、一般の方は必要性を感じていても、今、満足していれば何かに関わることに積極的ではないと思います。担い手となると、いろいろな事情から必要に迫られ、人材不足等が大きな課題になっているのだと思います。アンケート調査結果をみて、何とか一般の方も引き込んで活動していけないかと思いました。福祉政策を進めていくために、幸福だと考えている一般の方を、どのようにして引き込んでいけるのかが、活動のポイントになるように思いました。

金子会長：確かにご指摘とおり、国の施策の進め方も、地域共生社会づくりの中で「我が事・丸ごと」ということで、「他人事にしない」という流れになっています。みんなで考えていくために、このような施策を展開するという、4つの大きな項目を挙げています。みんなで進めるという考え方です。

山本委員：それを一般の方に気づいていただくことが重要なのですが、十分に幸福感のある方を引き込むには策が必要ですし、理解を求める姿勢も必要だと思います。

金子会長：理解や福祉関係の啓発が重要になってくると思います。具体策をどのように展開するのが難しいですし、展開できたとしても、すぐに数値として効果が出てくるのかどうかはわかりません。ある程度の期間をかけて、繰り返し展開していくことが重要だと思います。

実際には、大きなインパクトがあると一気に進むということはあると思いますが、それはなかなか難しいことだと思います。

酒井委員：企業で働いていた方が60歳前後で退職し、いわゆる地域デビューする場合があります。介護保険も国の制度だけでなく、市が独自に勘案した事業スタイルを認めていく場合もあり、ホームヘルプやデイサービス等を担う方はプロでなくてもよいという流れになってきています。その分、介護保険の給付額は下がるのですが、そのような制度を取り入れている事業もいくつかあります。ちょうど地域デビューした方が、報酬は少なくとも手ごたえを感じ参加することもあります。そのようなしかけを、あちこちにつくる必要があると思います。それが、地域福祉の層の厚い担い手になるのだと思います。

私が参加している活動も、ほとんどがボランティアで無報酬です。年金である程度

の生活が成り立つということで、行政の立場を離れ、以前関わっていた分野の手伝いをしているつもりです。今まで関わっていた仕事とは違う分野に、手ごたえを感じながら関わっているということです。

実際には、ボランティアにも有償ボランティアのシステムもあります。初老の元気で、お知恵をもつ方が、小金井地域にも大勢おられると思いますので、そのような方が地域で活動されることで、大きな力になると思います。

山本委員：私のそのような発想で活動しております。自分の生活や仕事等で手いっぱいの方に声をかけても、なかなか傾いていただくことは難しいと思います。ターゲット選びが難しいと思います。

酒井委員：やはりマッチングだと思います。自分でも予期せぬところで発想が広がる場合もあります。きっかけや何気ないしかけが必要だと思います。発信し続けるということが、各団体にも行政にも必要です。「手を上げようか」と迷っている市民の方は多いと思います。信頼できる自分の知り合いからのお誘いが、最も効果的だと思います。きっかけを利用して、一歩踏み出してみることも大切だと思います。

山本委員：わかりました。

金子会長：ありがとうございました。
他にご意見等はございませんか。

青松委員：民生委員として担当地域をもち、その地域でアンテナを張り暮らしています。訪問する中で、高齢者の方はご近所のことをとても気にされていると感じます。

「以前はこのような様子だったけれども、最近、見かけない」というような形で発信していただけることもあります。

私の地区でも、最近、若い世帯の方々が入ってこられ、小さな子どもも増えて活気づいていますが、地域の中で、その方たちをどのようにして巻き込んでいくかを考えています。

引きこもりに関しては、家族が「家の中の事をあまり他人に知られたくない」という思いがあると言われる民生委員の方もいらっしゃいます。民生委員は、地域の人と行政の関係部署を結ぶことが仕事だと思います。私の場合は完全にボランティアで、専門的な知識は持ち合わせておりませんが、行政と市民を結ぶための広く浅い知識は身につけています。

民生委員の会議の中でも、引きこもりに関しては課題として出始めています。そのような方々を、民生委員がどのように守っていくのかが重要です。「ここに相談し

てはいかがでしょうか」と助言しても閉じられしまうことが多いので、まずは見守りを行い、その中でタイミングをはかり、できることは何なのかを見定めることが重要だと言われています。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございませんか。

小森委員：市民健康づくり審議会でも、市民の健康をテーマに計画をたてて活動をしています。その中で、高齢者がスマホを持っているけれども、操作方法がわからないという話を聞きます。子どもに聞いても教えてもらえないという場合もあります。高齢者がスマホから情報を得ていることは、あまりできていないと思います。スポーツセンターに高齢者が集まり、ZOOMで健康体操を実施しましたが、その際に、ZOOMの操作方法を覚えていただき、次回からは自宅でZOOMで参加していただいています。高齢者にもITに慣れていただき、若い方には情報発信もしていただけると、よりよいと考えています。情報をスムーズに伝達できるしくみを整えることができるとよいと考えており思います。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございませんか。

穂坂委員：医療の面からお話しますと、実際に私どもの診療所であったことですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅から出ない方が発熱して、相談に来られました。私が目指すものはゲートキーパーであると申しましたが、何でも相談していただき、次につなげるということですが、今回のアンケートでも「つながりがわからない」「窓口がわからない」ということで、自分が健康なときには考えないことを、いざ病気になると考え、悩むものです。市からも、市民に「このようなときにはこうしたほうがよい」というような啓発をしていただけるとよいと思います。スマホに関しても、電話以外の機能を使わない高齢者もおられますので、市として、活用教室等を開催していただけるとよいと思います。

金子会長：ありがとうございました。

他にご意見等はございませんか。秋山委員は福祉団体のお立場として、担い手調査の結果をご覧になっていかがでしょうか。

秋山委員：担い手調査の結果に関しては、こころが痛い状況です。人材不足は、ここ何年も福祉業界の課題で、ほぼ1年中求人を出している状況です。求人を出してもなか

なか人が集まりませんし、応募があっても質のよい人材だけが集まるわけではありません。受け入れ窓口のハードルを上げると人が集まらず、下げると現場の苦勞につながります。その苦勞は、利用者の方に質の高いサービスを提供できないことに直結してしまいます。私どもの職員育成の力不足ということもありますが、難しさを感じています。実習生は多く来るのに、なぜ現場には人が集まらないのかという思いです。

この状況は何年も続いておりますが、高齢者分野だけでなく、私が現在関わる相談支援、指定特定相談の分野でも同様です。障害福祉サービスを利用するときのケアマネジャーの役割をしているのですが、現在、一番大変なことは、精神障がい者の方のヘルパーを探すことです。精神の方には難しさがあるということで、受け手が少なく、「ヘルパーが定年退職するので、他の事業所を探してほしい」という事案もでてくる状況です。

福祉業界全般で人手不足が深刻化しています。私どもは精神障がいの団体ですので、引きこもり等は何年も前から課題だと認識しており、どのように携わるべきなのかを考えていますが、人が足りないということで、現場は手いっぱい状況です。地域の課題に積極的に介入していくほどの余力はないということです。

金子会長：ありがとうございました。

実習をお願いしている立場としては、心痛く感じます。福祉の人材を育てるためには、実習重視の動きはさらに進み、新カリキュラムの中でも実習が多くなり、社会福祉協議会には今年度も来年度も依頼させていただきます。

多くのご意見をありがとうございました。実際に計画策定の段階では、皆さんのお知恵、ご意見をうかがいたいと思います。

先に進みます。

(8) 次回日程について

金子会長：(8) (次回日程は、令和4年度の実績報告がでる6月頃ということです。事務局から候補日に関して説明をお願いいたします。

事務局：事務局としたしましては、日中の会議を予定しております。会長のご都合を中心に、委員の皆さまのご予定と合わせて決めていただけるとありがたいと思います。

金子会長：事務局と調整して、曜日時間の候補をお伝えして、決めさせていただきます。

(9) その他

金子会長：9) その他として、何かございますか。

石塚副会長：先ほどのスマホの話が上がりましたので、情報提供させていただきます。高齢者向けのスマホ講座を介護福祉課で開催しており、市報で募集しています。人気があり、すぐに締め切られています。私どもでは、以前、引きこもりで相談を受けた方に、講座で教える側をしていただく取組をしていました。引きこもりの方の情報が届けば、出向いて、チラシと名刺だけを置いておき、できるだけつながれるようにと考えております。参考にさせていただけるとよいと思います。

中谷部長：アンケート調査結果の数字の見方について補足を申し上げます。回収率 36%、担い手の 7 割近くの数値は、全国的にも一般的な数値です。ただ、高齢や障がいなどの当事者からの回答に関しては 80%から 90%の回収率になり、先ほどのご意見にもありましたように、関心のない方はアンケート調査に回答しない傾向にあり、関心があれば回答率は上がる傾向にあります。そのようなことを踏まえ考えますと、ひきこもりの実態調査では、国の統計で約 1.45%ですが、市では 3.4%ということで、数値が大きくなるのは、「どなたかが意思をもち発信している」と受け取れると思います。関心があるので、このアンケート調査に回答した方がいるということです。そこにニーズがあるのであれば、石塚委員のご意見のような掘り起こしにつながる可能性を秘めていると思います。

低い数値の中にも傾向として表れる数字というものがありますので、ぜひ委員の皆さまからも知見をいただき、市の地域福祉計画に生かしていただきたいと思えます。行政としても 36%という数字に目を当てながら、SOSが発信されていると受け止めて、皆さまと共にご検討を進めていきたいと考えております。

金子会長：ありがとうございました。

以上で議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。

根本課長：(今後のスケジュールについて説明)

事務局：(報酬について説明)

3 閉会

金子会長：以上で、令和 4 年度第 3 回小金井市地域福祉推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

以上で終了